



自然部会

カメ類調査 豊中 2016

身近な生き物調べ

身近な生き物・カメの移り変わり

2016年度の身近な生き物調べはカメを取り上げました。カメは昔から身近な存在で、子亀は「ゼニガメ」として子どもの遊び相手として多く飼われてきました。高度成長期には、アカミミガメの子亀が



捕獲調査のアカミミガメ

「ミドリガメ」としてペットショップで売られ、菓子メーカーの景品として大々的に宣伝された結果、あっという間に子どもたちの心を驚づかみにしたのでした。

その結果、「ミドリガメ＝アカミミガメ」の子亀はペットとしての確固たる地位を確立し、大量のアカミミガメの子亀が輸入されました。

アカミミガメは子亀のうちは色が美しくてかわいいのですが、成長すると地味な体色になるとともにどんどん大きくなり、家庭の小さな金魚鉢などでは飼えなくなって、次々に野外に放逐されだしました。その結果、1960年代後半頃から全国各地での野生化が始まり、今では日本全土で一番多いカメになりました。一方で在来のイシガメ等はいまは少なくなっています。

豊中で初めての全体調査

これまで、豊中市内では大掛かりなカメ類調査は実施されたことがなく、断片的な情報しかなかったことから、市民への啓発も兼ねて市域全体のカメ類調査を実施しました。

調査は、市民からも広く調査員を募集して27人の調査員により、市内の千里川、猪名川、天竺川と市域の大きめの池を含めて18の区域を定め、特定の日（5月28日・9月18日）に一斉に目視観察を行う「一斉目視調査」と、5月～10月の任意の日に行う「任意調査」、それ以外の担当池を設けて、5月～10月の期間中に調べる「期間内目視調査」、カメトラップを仕掛けて捕獲する「捕獲調査」（8月20日）を実施しました。

圧倒的に多かったのがアカミミガメ(外来種)

調査の結果、アカミミガメ、クサガメ、スッポンの3種が確認されました。いずれの区域でも圧倒的にアカミミガメが多く（96.1%）、わずかにクサガメ（2.7%）、スッポン（1.2%）が見られた程度です。河川部分に限定すると、クサガメ（3.9%）とスッポン（2.6%）は若干多く見られました。一方で絶滅危惧種であるイシガメは、不明個体に含めた情報はあったものの、確認はできませんでした。

今回の調査から、改めて外来種のアカミミガメの多さを認識し、在来種がほとんどいなくなっていることを確認しました。生物多様性の保全に、より力を注がねばならないと強く思います。（柿本修一）

カメ類調査 調査別確認数

5月28日一斉目視調査(近接日調査分を含む)				
区域名	アカミミガメ	クサガメ	スッポン	不明
千里川	22	4	1	1
猪名川	22	1	0	0
天竺川	8	0	0	4
池	43	3	0	0
計	95	8	1	5
9月18日一斉目視調査(近接日調査分を含む)				
区域名	アカミミガメ	クサガメ	スッポン	不明
千里川	14	0	1	4
猪名川	7	0	0	0
天竺川	42	0	0	1
池	35	0	1	1
計	98	0	2	6
任意調査(5月7日～10月31日) 各種最多目視日確認数				
区域名	アカミミガメ	クサガメ	スッポン	不明
千里川	108	4	6	4
猪名川	22	1	0	1
天竺川	42	2	0	4
池	69	3	0	2
計	241	10	6	11
期間内目視調査(5月7日～10月31日) 各種最多目視日確認数				
区域名	アカミミガメ	クサガメ	スッポン	不明
池	278	2	0	12
捕獲調査(8月20日)				
区域名	アカミミガメ	クサガメ	スッポン	不明
千里川	1	0	0	0
池	0	0	0	0
合計	713	20	9	34